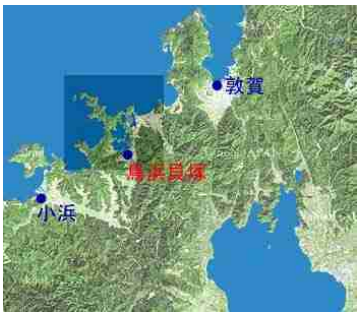
8 縄文の時代観を換えた「縄文のタイムカプセル」鳥浜貝塚を訪ねる

福井県若狭町三方　　2008.8.5.



8 月 5 日　青春 18 キップを持って早朝神戸を出て、以前から一度訪れたかった若狭湾三方五湖の畔にある「縄文のタイムカプセル」鳥浜貝塚へ行ってきました。

縄文遺跡というと信州から東日本・北海道で　関西に有名な縄文遺跡はないというのが、一般的な見方である。特に青森三内円山遺跡の発掘により、一気にそれまで抱かれていた原始的な縄文のイメージがひっくり返り、高度な文化をもった社会であり、日本人のルーツでもあることが現在では定着しつつある。

この青森三内円山遺跡に先立って、最初に「狩猟・採取の原始の縄文の時代感」を換えさせたビックな縄文草創期・前期の縄文遺跡が関西にある。それが、古くからの大陸との交流の窓口である若狭湾 三方五湖の街　三方湖の直ぐ傍にある鳥浜貝塚。今から約 12000 年前から 3000 年前にかけての縄文草創期から晩期　当時日本海につながる奥の深い湖（古三方湖）に突き出た岬のほとり現在の「三方鳥浜」に縄文の集落があり、川の改修工事の現場から湿地の中に長く眠っていた縄文の貝塚が忽然とあらわれた。　この貝塚や周辺から出土した大量の遺物　特に 6000 年頃縄文前期の遺物が多く、それまで考えられてきた原始的な生活ではない高度な文化を持った縄文の村を示し、縄文の時代観を換える大きな役割を果たした。

鳥浜貝塚が明らかにした示縄文前期の村の生活

丸木舟をあやつり、湖、海での網を使った漁、かごを使っての山菜や木の実の採集、それに狩猟の生活のなかで、栽培植物も利用して道具や衣類を作り、食用にあて、漆工芸品を作りました。
衣服を着て漆塗りの櫛を髪にさし、真珠や骨角や石のアクセサリーで鮮やかに身を飾っていた。
これらの生活維持のため、ほかの集団との広い交易も行っていたことが遠隔地産の石器石材や他の地方の影響をうけた数々の土器などからわかります。
このように、厳しい自然のなかで定住生活をいとなみ、舟を操り、これらの高度な文化をもっていたことが明らかになり、鳥浜貝塚に続く新保チカモリ遺跡や、三内丸山遺跡などのより高度な縄文文化への発展の土台は、すでに鳥浜貝塚が代表する縄文前期にはできていたといえる。

また、若狭湾は関西か? との疑問もありますが、湖西線が開通し、新快速電車が姫路から敦賀へ　道路も舞鶴自動車道から若狭・小浜自動車道が開通し、通勤圏としてはちょっと外れますが、数時間で行き来が出来る距離。
古代の畿内との結びつきに近い距離感のちかさになって、今はもう「関西」のイメージです。

1.　福井県若狭町三方「縄文のタイムカセル　鳥浜貝塚」を訪ねて　walk　2008. 8. 5.

鳥浜貝塚遺跡とその背後を東西に伸びる椎山丘陵　　三方五個のひとつ　三方湖

鳥浜遺跡の西南側　南北に流れる蓮川の土手の一帯は　縄文草創期・前期　北に広がる三方湖が広かる湖畔

神戸から新快速「敦賀」行に乗って、湖西線を経由して、2 時間ちょっとで敦賀に着く。 ほとんどの人が東へ　北陸へ向かう福井や金沢行きの電車に乗り継ぐ。一方、西へ若狭小浜へ向かう小浜線は乗継がなく、約 1 時間待ちである。

敦賀から三方へは西へ 5 つほど　原発のある美浜の隣　小浜との中間にあり、三方五湖の中心地であるが、すこぶる便が悪い。

帰りにやってわかったのですが、三方へは　はやっぱり、湖西線　近江今津から国鉄バスで上中町まで出て小浜線に乗り継ぐのが近い。どうせバスの本数も少ないと思っていましたが、バスの方が本数も多く、待ち時間なども入れると敦賀周りよりも 1 時間以上の短縮。さすが　近江今津から小浜へ抜けるルートは古墳時代からの幹線ルート。

ビックリで今も関西へはこのルートが幹線のようです。

やつと　11　時過ぎに三方駅につきましたが、駅員さんはいましたが、ほかには誰もいない駅。 平日の昼前ということもありましたが、駅に降りる観光客もなく、学生数人と下車。ええ絵・・・・・でした。

三方五湖の観光地とのイメージは吹っ飛んで、駅に併設された観光案内所を含む待合室に昼寝を楽しむ人　一人のみ。

　駅の観光案内にも人は居らず、周辺地図を棚から取って、鳥浜貝塚の方向を聞いて出発。 駅があるのは南側にある山の裾で、見方の集落がこの山裾に沿って広がっている。 有名な三方五湖の湖　そして、鳥浜貝塚はこの駅から、真っ直ぐ北の方角。

道標があるだろうと思っていましたが、全くなし。 やっぱり　儲からない縄文遺跡には金がかけられないようだ。

南北に走る小浜線の駅の直ぐ南でガードをくぐって、地図を見ながら、西に出て、集落を抜けるとどこまでも続く広い田園。

こ秋の実りをつけた稲穂が広がっている。

　この田圃の向こうが、三方湖で、 鳥浜貝塚があった縄文時代には　このあたり　駅のある山裾まで、「古三方湖」が広がっていた場所である。 その西端の山の周辺のあたりが、かつて、湖に西から突き出た半島の岬が突き出たところで、その麓が鳥浜貝塚。 そんな目っこをつけて、田圃のあぜ道に入ってゆく。

三方駅の西北側の若狭湾の方角　三方湖との間に広がる田園地帯　　*2008. 8. 5.*

国道 162 号との鳥浜交差点

田圃のあぜ道を真っ直ぐ突き抜けると東西に走る交通量の多い広域農道に出て、広大な田園地帯の南の端の出口の山際の集落へ向かうと、まもなく、正面を東西に横切る国道 162 号線「鳥浜」交差点にぶちあたり、常神レインボーライン・若狭三方縄文博物館への標識など数多くの案内標識が見える。 この国道 162 号線は小浜線の東側を南北に 敦賀と小浜を結ぶ国道 27 号線から三方駅の直ぐ南側の集落の中で別れ、西側へ三方五湖とその北側の日本海に突き出た常神半島を結ぶ。

振り返ると後ろには 通ってきた広域農道を中心軸として この「鳥浜」や「三方駅のある山裾」 そして 道の反対側敦賀方向の山裾を楕円状に取り囲む田園地帯が広がっている。

これが縄文時代の「古三方湖」の広がりで、右手の山が湖に突き出していた岬。 現在の地図では南から田園地帯に蓮川が流れ込みこの山の端を回りこんで西の三方湖へ向かう。 鳥浜貝塚はこの岬の南側の山裾の当たりである。

古三方湖の広がり　今は田園地帯

縄文時代の古三方湖の広がり

この鳥浜交差点の直ぐ右に曲がると南からで橋を渡ると先ほどから眺めてきた山の端にぶち当たる。 地図によるとこの山の端の左側が鳥浜貝塚周辺で右側が常神半島・三方五湖そして若狭縄文博物館へ行く国道 162 号線である。
また、この鳥浜の交差点の左手に小さな鳥浜の集落が広がり、端を渡ったところの山に神社が祭られている。

この川が蓮川でこの川の改修時に鳥浜貝塚が現れたという。

橋を渡っていると左手の川向こうに大きな縄文人の像のモニュメントが見え、鳥浜貝塚公園と知れる。

鳥浜交差点の東側　蓮川の橋

蓮川の向こう左手　鳥浜貝塚遺跡　その背後に椎山丘陵地が続き　右手端の向こうが丘陵地の端　*2008. 8. 5.*

三方五湖・常神半島へ続く国道 162 号線は橋を渡って右手をこの椎山丘陵地を巻いて西へ流れる蓮川沿い

また、 この蓮川の改修工事で鳥浜貝塚が出土した

大きな縄文人のモニュメントが建つ　鳥浜貝塚　　*2008. 8. 5.*

橋を渡って、左へ蓮川に沿ってこの椎山丘陵の端の山裾を南へまわりこむと、この椎山丘陵の南側を丘陵地に沿って西から流れこむ高瀬川と蓮川の合流点に鳥浜貝塚がある。北側から歩いてきた時には良く判らなかったが、この椎山丘陵の南側にも丘陵地や山に取り囲まれて広大な田園地帯が広がり、縄文時代　椎山丘陵の端が岬のように古三方湖に突き出していたことが良く判る。

鳥浜の南側

南西側　蓮川と椎山丘陵地

東側　　高瀬川沿い

古三方湖の南側部分　こちらにも広い田園地帯が広がる　　鳥浜貝塚のある蓮川と高瀬川の合流点周辺より

古三方湖の中に広がる平坦な田園地帯の川の合流地点　今は蓮川と高瀬川がきれいに整備されているが、改修までは湿地帯がずっと保持されてきたのだろう。その中に鳥浜貝塚が埋もれ、この湿潤環境の中に埋もれていたことが、木製品や種子など有機物質の遺物が多数残り、その遺物の数々がこの鳥浜の縄文の生活を生き生きと浮かび上がらせ、「縄文のタイムカプセル」と呼ばれた。

高瀬川の小さな橋を渡るとＹ字の合流点の中が鳥浜貝塚公園として整備されているが、最近は人があまり入らないのか、雑草が生え朽ち果て気味である。 その中に立つ縄文人のモニュメントが異様に見え、また 「鳥浜貝塚」の碑と解説の案内板が立っているのみである。

縄文のタイムカプセル　鳥浜貝塚　　*2008. 8. 5.*

この縄文のタイムカプセル　鳥浜貝塚の出土遺物や概要については下記の項にまとめている。

2. 縄文の時代観を書き替えた「縄文のタイムカプセル」鳥浜貝塚　概要

3. 鳥浜貝塚　＆　三方湖周辺の写真

それを要約すると下記の通り。

鳥浜貝塚が明らかにした示縄文前期の村の生活

丸木舟をあやつり、湖、海での網を使った漁、かごを使っての山菜や木の実の採集、それに狩猟の生活のなかで、栽培植物も利用して道具や衣類を作り、食用にあて、漆工芸品を作りました。
衣服を着て漆塗りの櫛を髪にさし、真珠や骨角や石のアクセサリーで鮮やかに身を飾っていた。
これらの生活維持のため、ほかの集団との広い交易も行っていたことが遠隔地産の石器石材や他の地方の影響をうけた数々の土器などからわかります。
このように、厳しい自然のなかで定住生活をいとなみ、舟を操り、これらの高度な文化をもっていたことが明らかになり、鳥浜貝塚に続く新保チカモリ遺跡や、三内丸山遺跡などのより高度な縄文文化への発展の土台は、すでに鳥浜貝塚が代表する縄文前期にはできていたといえる。

1. ゴボウ・アサ・アブラナ・リョクトウ・シソ・コウゾ・漆作りに関連するエゴマなどの種子や、ヒョウタンの種子と果皮などが出土。
   - ○ これらは野生種ではなく栽培種とみられ、縄文前期にはすでに食用のものをふくむ栽培植物があった。
   - ○ 日本を原産としないこれらの植物は、大陸からもたらされたの大陸との広い交流がすでに、日本にも及んでいたことを示す。
2. 丸木舟・櫂・弓・石斧の柄・鉢・櫛など、木製の道具の種類や量の豊富さ、高度な製作技術
   - ○ 高い文化水準と集団としての交流が伺える。
3. 木製品や土器に塗られた赤や黒の漆の技術。そのルーツはまだよくわからないが、少なくとも縄文前期から独自に高度な発展をしてきたものと考えられる。
4. 大麻の糸、アカソのアンギン（編布）、ヒノキの細割り材を使った漁網・かごなどが出土。
   - ○ 湖、海での網を使った漁、かごを使っての山菜や木の実の採集、緻密な工芸・装飾品と多彩で豊かな定住生活が垣間見える。

　しばし、遺跡の中や蓮川の土手から周囲の景色や椎山丘陵を眺めながら Walk。
それにしても、アフリカ原産のひょうたんがもう縄文草創期には栽培されていたとは・・・。 その道のりにビックリ。
二上山のサヌカイトなどの石材も・・・・・・
また、何艘も出土した丸木舟　イメージした丸木舟よりも浅いのですが、これでは　日本海は渡れないだろうが・・・・
でも、大陸・日本海沿岸をつなぐ交通の要所　古代　渡来人もこの地を渡ってきたし、「鉄」も。
　そんな日本海沿岸の交通路が　すでに縄文前期には整備されていたとは　本当にビックリで、「今の頭で考えたらあかん」と。

後で訪れた若狭三方縄文博物館にはこの鳥浜貝塚を中心に縄文の世界の展示がなされていた。
また、小浜市の若狭歴史民俗資料館には　この鳥浜貝塚から出土した遺物が整理して展示されていると聞きましたが、今回は行けませんでした。

鳥浜貝塚から元の橋のところまで戻って、丘陵地を回りこんで西へ蓮川沿いの国道 162 号線を三方湖に向かって進む。
15 分ほど歩くと国道の右手によく整備された公園の中に立つ、小山状の建物が見える。
それが、蓮川の三方湖の河口まで広がる広い公園の中に立つ若狭三方縄文博物館だった。

三方湖へ向かう蓮川沿いの道　正面の山は三方湖の対岸に聳える梅丈岳　*2008. 8. 5.*

若狭三方縄文博物館と縄文博物館の小山から眺めた三方湖　*2008. 8. 5.*

この若狭縄文博物館では　鳥浜の縄文を中心に縄文の世界を判りやすくジオラマなどで展示している。また、この地の縄文の拠点として、数々の活動や活動の場を提供している。

　鳥浜貝塚が「縄文のタイムカプセル」といわれることに重きがあるためか、展示が縄文世界　鳥浜貝塚のレビューなど縄文の理解に重点が置かれていて、縄文世界と鳥浜とがごちゃまぜ。　欲を言うと鳥浜貝塚とその周辺状況そのものを知る上では　ちょっと物足りない。少なくとも　鳥浜貝塚のしっかりした図録がほしいなあ・・・・・と。
（ちなみに　貝塚公園の解説案内も時間がたち　一部消えたり老朽化が進んでいる。）

でも、静かな三方湖の湖岸に立つと一挙に喧騒を忘れ、遠い昔に引き込まれて、博物館で見た一つ一つを思い浮かべながら、遠い昔のイメージが膨らんでくる。
鳥浜貝塚・若狭縄文博物館は「関西の縄文」　縄文の世界を知る上でも　ぜひお勧めの場所である。

どこまでも静かな三方湖（1）何もないがゆったりとした時間が過ぎてゆく　*2008. 8. 5.*

縄文の初めより、多くの人々とともに多くの文物がこの湖を渡り、今の日本のルーツとなったのだろうか

.

どこまでも静かな三方湖（2）何もないがゆったりとした時間が過ぎてゆく　*2008. 8. 5.*

帰りは　隣町上中より、熊川宿・近江今津から湖西線で

2008. 8. 5.　Mutsu Nakanishi

【参　考】

1. 若狭三方縄文博物館　常設展示図録
2. 若狭歴史民俗資料館 HP　資料

2、鳥浜貝塚　概要　縄文の時代観を書き替えた「縄文のタイムカプセル」　福井県若狭町三方

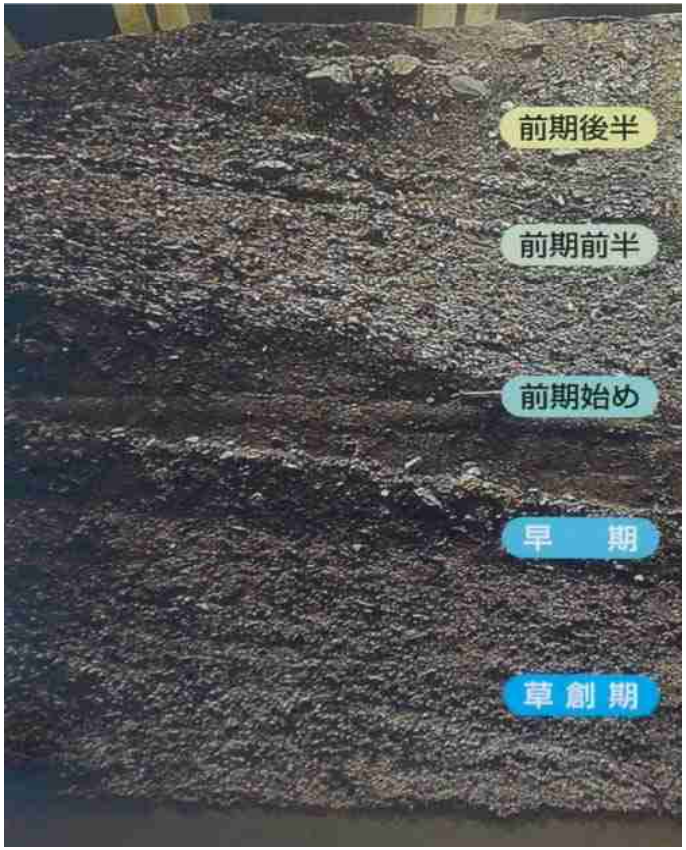
鳥浜貝塚は三方五湖のなかの三方湖の南東の方向の三方町鳥浜にあり、ほぼ南北に流れる蓮川とその支流高瀬川の合流地点一帯の西側からのびる丘陵の先端部に位置し、その規模は東西約 100 メートル、南北約 60 メートルの半月状と想定されている。

当時は、椎山丘陵が西方から東方へ岬のように延びていて、三方湖はその丘陵の先端付近まで湾入していた。

　その丘陵南側斜面で三軒分の竪穴住居跡も発見され、湖畔に鳥浜人が居住し、今の若狭地方の拠点的集落であったのではないかと考えられている。

　遺物の含まれる層は現在の地表面より約３ｍ下から７ｍ下までおよんでおり、当時は湖中であったが、現在までに約 3 メートルの土が堆積し、保存状態の良い「縄文のタイムカプセル」と呼ばれる貝塚である。

当時の丸木舟　木製品や縄、編物、漆製品、木の実・魚・貝類なども含め、自然遺物といった有機物が良好に保存されており、発掘調査によって縄文の人々の生活を明らかにする生々しい資料が姿をあらわしました。

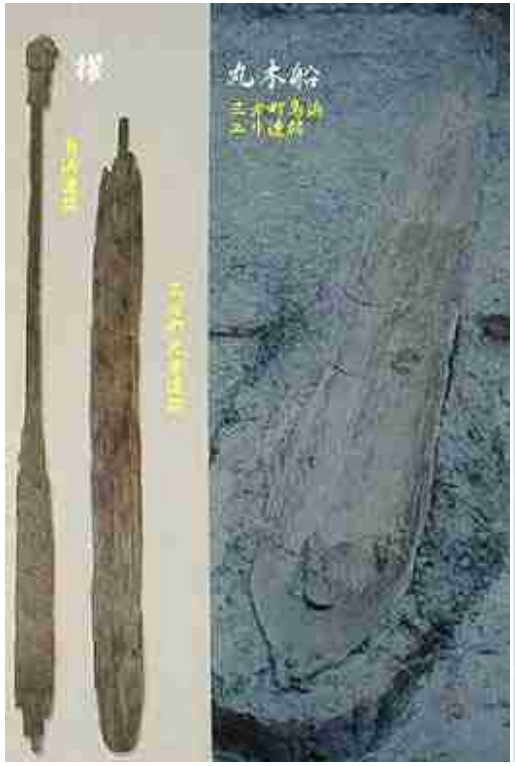


2.1、縄文時代像を塗り替えた　鳥浜貝塚出土遺物　若狭歴史民俗資料館 HP 資料より整理

遺跡は、海抜 0m～-4.0m にある低湿地帯貝塚で、赤漆塗の櫛をはじめとする漆製品、石斧の柄、しゃもじ、スコップ状木製品、編物、縄などの有機物遺物やヒヒョウタン・ウリ・アサ・ゴボウ等の植物遺体、丸木舟、糞石など、通常は腐食して残りにくい貴重な遺物が、水漬けの状態で良好に保存されていたため、「縄文のタイムカプセル」とよばれる由縁である。

約 5,500 年前の約 60cm の厚さの遺物層の中には、ドングリ・クルミなどの種子層、魚の骨やウロコなどの魚骨層、淡水の貝殻の貝層が確認された。これらの堆積状況から、秋に採取した森の食物を秋から冬にかけて食べ、春には三方湖で魚や貝をとっていたことが分かった。

また、夏は若狭湾に回遊するマグロ・カツオ・ブリ・サワラを捕って食べていたことがわかり、季節に応じた食生活の様相が明らかとなった。



鳥浜貝塚出土の「漆」

「ひょうたんの果皮」

「クルミの残滓」

「糞石」

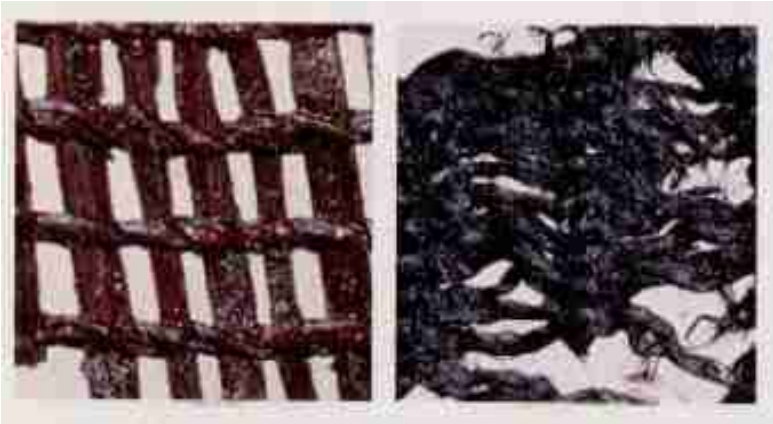
縄文時代像の変化の始まりとなったのは、縄文前期（約 6500～5000 年前）を主とした三方町の鳥浜貝塚の、1962 年から 86 年の発掘調査でした。
この三方湖畔の優良な低湿地遺跡は、残りにくい有機質の遺物を多数出土し、当時の生活のようすが復元できる「縄文人のタイムカプセル」とよばれました。
狩猟と採集や原始的な漁にたより、長期の定住はできず文化程度も低いといったそれまでの縄文時代像を、根底から見直していく大きな転換点になりました。

鳥浜貝塚遠景
写真中央の河口と丘陵が接する付近が鳥浜貝塚。湖は三方湖

鳥浜貝塚の遺物のなかには、ゴボウ・アサ・アブラナ・リョクトウ・シソ・コウゾ・漆作りに関連するエゴマなどの種子や、ヒョウタンの種子と果皮があり、これらは野生種ではなく栽培種とみられていますから、縄文前期にはすでに食用のものをふくむ栽培植物があったことがわかりました。
日本を原産としないこれらの植物は、大陸からもたらされたのだろう。
丸木舟・櫂・弓・石斧の柄・鉢・櫛など、木製の道具の種類や量の豊富さや高度な製作技術は現代からみても驚くべきものです。
さらに、木製品や土器に塗られた赤や黒の漆の技術は、すでに同時期の中国のものよりすぐれています。
日本の代表的伝統文化の漆工芸は、その源流は大陸から伝わったのかもしれませんが、少なくとも縄文前期から独自に高度な発展をしてきたものと考えてよいでしょう。
ほかに、大麻の糸、アカソのアンギン（編布）、ヒノキの細割り材を使った漁網・かごなどがある。
湖、海での網を使った漁、かごを使っての山菜や木の実の採集、それに狩猟の生活のなかで、栽培植物も利用して道具や衣類を作り、食用にあて、漆工芸品を作りました。衣服を着て漆塗りの櫛を髪にさし、真珠や骨角や石のアクセサリーで鮮やかに身を飾っていた。
狩猟の時や木製の道具・アクセサリーを作る時に使う石器の石材のなかには、遠隔地でしか産出しないものもあり、土器は他の地方の影響をうけていますから、ほかの集団との広い交易も行っていたことがわかる。

めずらしい土器
ベンガラを塗った丹彩土器（左）は、鳥浜貝塚と同時期に京都市の遺跡から出土した土器とよく似ている。高さ 10.5cm
斜格子文土器（右）は縄文草創期のものでたいへんめずらしい。 高さ 12.7cm

厳しい自然のなかで定住生活をいとなみ、そのうえこれらの高度な文化をもっていたとは驚きです。鳥浜貝塚に続く新保チカモリ遺跡や、三内丸山遺跡などのより高度な縄文文化への発展の土台は、すでに鳥浜貝塚が代表する縄文前期にはできていたといえる。



いろいろな編み物

もじり編み　　アンギン（編布）

ヒョウタンの種子と果皮

石斧の柄長さ　68cm

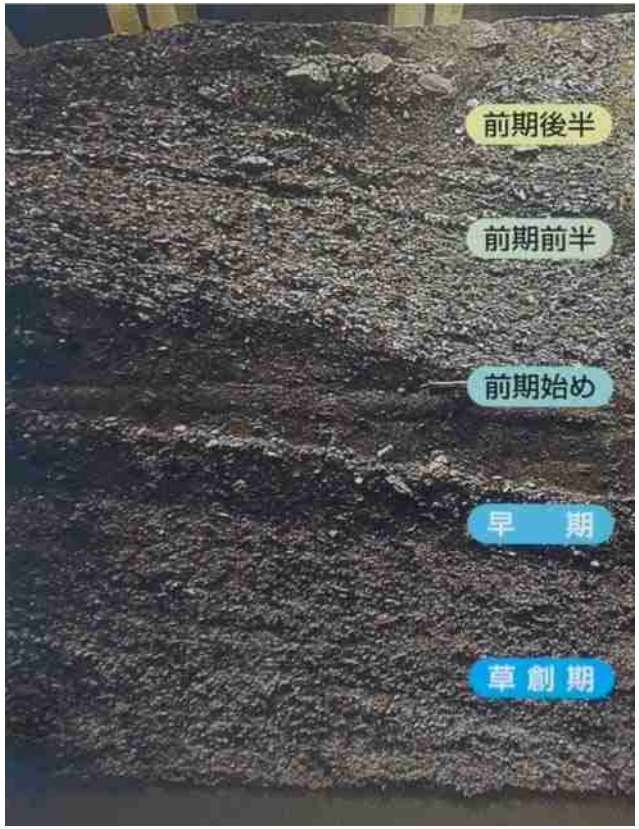
木の幹と枝の股を利用している。

石器の刃をはめ込めるように

ソケット状に加工しているのがわかる。

2.2.　日本 最古の栽培植物「ひょうたん」の殻と種

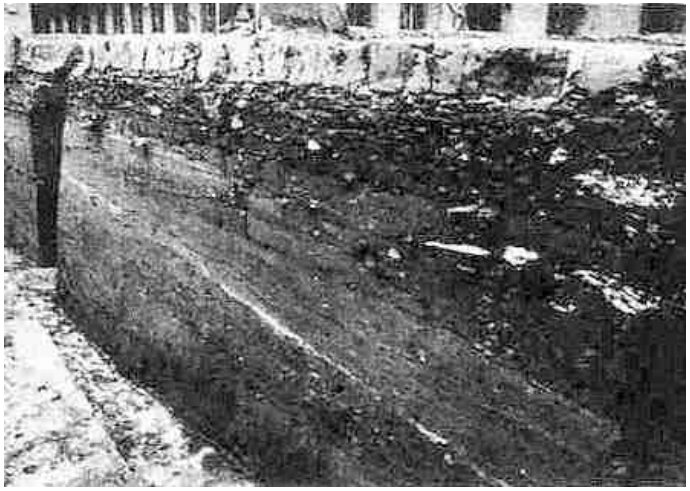
一万年前、日本海で発生した巨大噴火の痕跡の下からひょうたんの殻が出土



鳥浜貝塚の縄文早期の地層から出土した一万年前のヒョウタン＝ユウガオの殻、その年代の決め手になったのが、ヒョウタンの殻の埋まっていた層の直上にある、火山灰です。
写真の中央からやや下の白い土の層が、その火山灰です。このすぐ下からユウガオ・ひょうたんの殻が見つかりました。
この灰は、いったい、どの火山から飛来したのだろうか。
この鳥浜貝塚に残る火山灰層は、厚さが３ｃｍ前後もあり、かなり大きな噴火を物語っています。
日本海の北西部の海底には、鳥浜貝塚と同じ成分構成を持つ火山灰が、海底地質の調査で、見つかっています。
その火山灰の層は、韓国東岸沖１８０km にあるウルルン島周辺で最も厚く堆積している事から、鳥浜貝塚の火山灰は、ウルルン島から飛来したと考えられています。

鳥浜貝塚出土ひょうたんの殻

ウルルン島から福井県の鳥浜貝塚までは、約５００km も離れていながら、火山灰が３cm も積もっていますから、巨大な噴火と申せましょう。
火山学者はこの一万年前の噴火の規模を噴火マグニチュードＭ６．７としています。



『 鳥浜貝塚 ３ 』
1981 年度・1982 年度調査・研究成果.
編集 鳥浜貝塚研究グループ. 1983 年

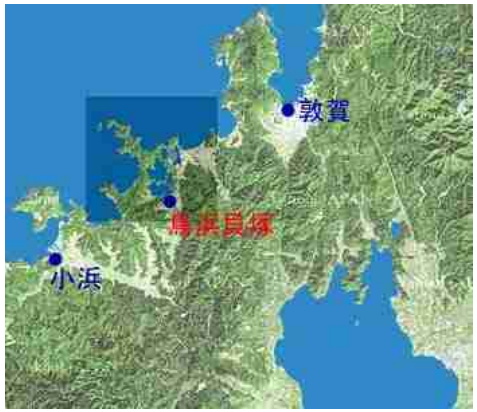
ひょうたんの原産地は西アフリカのニジェール川流域。どんな経路をたどって日本まで来たのか、出土した丸木舟で運んできたのだろうか・・・・・
また、この鳥浜貝塚で「ひょうたん」の殻や種子が出たことから、この地で「ひょうたん」の栽培がはじまっていたとも考えられている。

■ http://blog.goo.ne.jp/rgriggs1915/e/f0733f9069405a6bc43d8637c738b252 より整理
貝塚断面の剥ぎ取りカラー写真は若狭三方縄文館常設展示図録より整理

3、鳥浜貝塚 ＆ 三方湖 周辺の写真

三方駅の北側　田園地帯の向こうに広がる三方湖　かつては　駅のある傾斜地の下まで古三方湖が広がっていた

三方駅の北側　三方湖との間に広がる田園地帯　　*2008. 8. 5.*



鳥浜貝塚遺跡とその背後を東西に伸びる椎山丘陵【1】鳥浜遺跡の西南側　南北に流れる蓮川の土手より

この一帯は　縄文草創期・前期　北に広がる三方湖が広かる湖畔

遺跡の西側
はす川と背後東西に続く丘陵地

遺跡の東側（1）
丘陵先端の西側　高瀬川沿い

遺跡の東側（2）
丘陵先端の東側　蓮川　三方湖方面

鳥浜貝塚遺跡とその背後を東西に伸びる椎山丘陵　【2】　2008. 8. 5.

古三方湖に突き出た半島の先端部　縄文草創期・前期の縄文遺跡　鳥 浜 貝 塚 遺 跡　2008. 8. 5.

鳥浜貝塚（縄文人のタイムカプセル）

鳥浜貝塚は、三方湖に注ぐ鰣川と高瀬川との合流点の川床（東西約100m、南北約50mの範囲）を中心に拡がりをもち5,000年から6,000年前ごろの縄文時代前期の時期を主体とし、12,000年前ごろの縄文時代草創期までの遺物が出土する日本最古の低湿地遺跡です。

当時の人々は、現在地北側の愛宕山の丘陵（当時は、湖に突き出た岬でした。）の先端に竪穴式住居を構え生活していました。縄文時代前期の時期には、食糧とした貝類、獣骨、木の実あるいは生活用具の土器、石器、木製品などが海抜0mからマイナス4m付近の湖の岸辺に長期間捨てられ、これらが堆積し貝塚が形成されました。このため、全国の多くの遺跡では腐食してしまう貴重な植物性遺物などが水中の地下深くに保存されています。

1962年から85年までの10次にわたる発掘調査では、今までの定説をくつがえした日本最古の赤漆塗り櫛、石斧の柄、編物、縄やヒョウタン、リョクトウの栽培植物など多種類の貴重な遺物が多量に出土しています。これらの遺物の発見は、考古学分野と動物骨、植物種子、木材、火山灰、花粉、年代測定、糞石などの自然科学分野の研究者が発掘調査に参加し、総合的に研究がすすめられたことによる成果といえます。

若狭町教育委員会

鳥浜貝塚出土の主な生活遺物

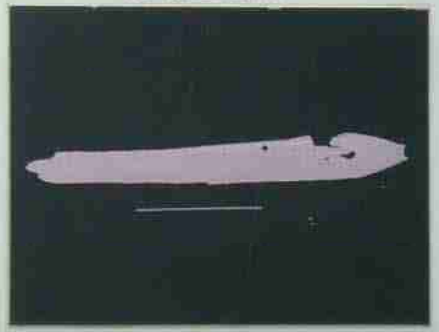
遺物名	種	
縄文土器	器形	深鉢形・浅鉢形・漆塗土器・丹彩土器
	型式	草創期(隆線文・爪形文・多縄文系土器)、早期(押型文土器)、前期(羽島下層II式・北白川下層I式・北白川下層IIa式、北白川下層IIb式、北白川下層IIc式土器など)
狩猟具	石鏃・丸木弓・木製突き棒	
漁撈具	骨製ヤス・石錘・土器片錘・タモ	
運搬具	丸木舟・櫂	
加工具	石皿・磨石類・石斧・石匙・異形石器・磨製石斧・砥石・軽石石器・石斧の柄	
日用工芸品	骨製針・木製容器・編物・糸・紐・縄・綱	
装飾品	骨製髪飾・骨製垂丸飾・漆塗り櫛・玦状耳飾・貝輪・真珠	

鳥浜貝塚出土の主な動物・植物遺体

種類	品種名
魚類	(淡水魚) コイ科・ナマズ・ギギ・ハス
	(海水魚) ブリ・マグロ・カツオ・クロダイ・フグ科・サメ・ウシサワラ
貝類	(淡水産) カラスガイ・イシガイ・トンガリササノハ・マツカサガイ・オオタニシ・ヒメタニシ・カワニナ
	(汽水産) ヤマトシジミ
	(海水産) マガキ・ハマグリ・サザエ・テングニシ・コシダカガンガラ・ツメタガイ・チトセボラ・レイシ・イシダタミ・マクラガイ・オオヘビガイ・クボガイ
哺乳動物	(偶蹄目) イノシシ・ホンシュウジカ・ニホンカモシカ
	(霊長目) ニホンザル
	(ウサギ目) ノウサギ
	(食肉目) タヌキ・ツキノワグマ・イヌ・オオカミ・アナグマ・カワウソ・オオヤマネコ・テン・アシカ・オットセイ
	(クジラ目) イルカ・シャチ・クジラの仲間
鳥類	カモの仲間・ヒシクイ・ウミウ・オオハクチョウ・ワシ類
木の実類他	(野性食用植物) スダジイ・ドングリ類(アカガシ・ウラジロガシ・アラカシ)・オニグルミ・クリ・カヤ・トチノキ・ヤマグワ・ムクロジ・ブドウ属・マタタビ・ヤマボウシ・ユリ科球根・クサイチゴ・ナワシロイチゴ・ヒシ
	(栽培植物) ヒョウタン・リョクトウ・シソ・エゴマ・ケツルアズキ・ウリ科・アブラナ科・ゴボウ・カジノキ・アサ

発掘調査の状況　住居跡など遺構の検出
第9次調査(1984年)

石斧柄・棒・鹿角などの遺物出土状況
第9次調査(1984年)



第1号丸木舟　現存長6.08m、最大幅(舟尾部)0.63m、最大内深(舟尾部)0.21m
第6次調査(1981年)出土

若狭　三方五湖「三方湖」の夏【1】　　2008.8.5.

若狭　三方五湖「三方湖」の夏【2】　　2008. 8. 5.

高瀬川と蓮川の合流点鳥浜周辺（中央）突き出た丘陵地の西（左）と東　蓮川（右）

蓮川が三方湖に注ぎ込む河口にある若狭三方縄文博物館　　2008. 8. 5.